

## モンゴル国家統計局支援事業について

当財団は、アジアを中心とした開発途上国について、(独)国際協力機構(以下、JICA)が実施する統計協力および統計機関の国際会議、統計交流に対して支援を行っている。

モンゴルについては、東アジアにおける地政学的な重要性に鑑みて、要請に応じ、2005年9月8日、モンゴル国家統計局(以下、MNSO)と当財団との間で、両国の社会経済開発ならびに両機関および両国の利益の基盤としての政府統計の分野における協力プログラムを確立するため3ヶ年の統計支援に関する協定を締結した。

この協力協定の規定により、①毎年1週間程度、MNSOから2名の幹部職員を招聘し、政府関係機関等の協力を得て国内研修を行うこと、②毎年1週間程度、当財団から講師をモンゴルに派遣し、MNSO側の要望に沿ったテーマによるセミナーの開催と意見交換等を行うこと、③本事業をJICAのプロジェクト事業につなげるべく、関係機関等への働きかけや周辺事情も含めた相互の情報交換を随時に行うこととした(協定締結の経緯と詳細については、本誌2005年12月号「特集」参照)。

この事業の初年度となる2006年度には、5月に2名の視察団を受け入れ、日本での統計事情視察・研修を行った。また9月には、6名の視察団をモンゴルへ派遣し、ウランバートルにおいて、統計職員を対象に統計セミナーを開催した(初年度事業の詳細については、本誌2006年12月号本欄参照)。

また、これらのプログラムにとどまらず、昨年11月には、東アジア統計局長会議で日本を訪問したゲレルト・オドMNSO副局長と、当財団役員の会合の場を持つなど、両機関の

交流は年度を通じてより深いものとなった。

## 第2回MNSO統計視察団の来日(4月)

本事業2年度目となる本年度は、第2回MNSO訪日統計視察団として4月21~28日の1週間、MNSO局長顧問ユムスーレン・トル女史(次頁左上写真の下列左)、オルホン県統計部長ドゥガスーレン・エルデネチメグ女史(同下列右)の2名を招聘し、国内研修を実施した。

研修は、総務省統計局、(独)統計センター、国連アジア太平洋統計研修所、および静岡県庁(企画部統計利用室)を訪問し、中央・地方における統計調査の企画・実施・提供等についての業務説明・意見交換を行ったほか、

### 滞在スケジュール

|         |                             |
|---------|-----------------------------|
| 4/21(土) | 来日                          |
|         | 当財団主催歓迎夕食会                  |
| 4/22(日) | 静岡市内観光(日本平、久能山東照宮、三保海岸等)    |
| 4/23(月) | 静岡県庁訪問(大石企画部統計利用室長表敬、静岡県概況) |
|         | 当財団会長主催夕食会                  |
| 4/24(火) | 国連アジア太平洋統計研修所訪問(ダバスーレン所長表敬) |
|         | 当財団(伊藤理事長・久布白専務理事表敬、業務概況)   |
|         | (独)日本統計協会主催夕食会              |
| 4/25(水) | 総務省統計局訪問(川崎局長表敬、調査企画・実施関係)  |
|         | (独)統計センター訪問(中川理事長表敬、業務概況)   |
|         | 総務省統計研修所訪問(所内視察)            |
| 4/26(木) | 当財団(JICAプロジェクトに関する会談)       |
|         | ICONS国際協力(独)主催昼食会           |
|         | 東京観光(国技館)                   |
| 4/27(金) | 東京タワー内とうけいプラザ見学             |
|         | 当財団(統計情報提供状況、GIS紹介、総括会議)    |
|         | 当財団主催送別会                    |
| 4/28(土) | 帰国                          |

総務省統計研修所、とうけいプラザ（東京タワー内）等の施設見学を行った。

また、当財団において、統計情報提供状況、GISの利用方法、当財団で開発した教育用GISソフト『使ってみよう国勢調査データ（G-Census）』の

紹介など業務概要の説明等を行った。

視察団は、統計調査の具体的な実施手法や予算について大変興味を持ち、積極的な質問を行った。

地方研修として静岡県庁を訪れた際、静岡市内を半日観光する機会があった。

あいにくの曇天で日本平からの富士の大パノラマを望むことができなかつたのは残念であった（モンゴルでも、富士山は日本のシンボルとして名高いようである）が、駿府公園、久能山東照宮、三保松原を巡った。

特に、海に囲まれた国に生まれ育つ私たちにとって、モンゴルのような海のない国は想像するのが難しいが、三保の海岸に着くと、



いちご狩りに満足



川崎総務省統計局長を表敬



静岡県庁での研修の様子

お二人とも、靴を脱ぎ捨てて波打ち際の砂の感触と潮風の心地良さを確かめていたのが印象的であった。

また、石垣いちご狩りは初体験で、摘みたてのいちごの美味しさに大変感動している様子であった。

日本滞在の最終日には、秋にウランバートルで開催予定の統計セミナーに関しての意見交換を行うとともに、財団職員によるアットホームな送別会を行い、セミナーの成功と今後の両機関のさらなる協力を約束した。

筆者は幾つかの行程で視察団に随行したが、視察団の女性2名の、統計視察におけるモンゴル統計の現状と将来を見据えた視点の鋭さだけでなく、留守にしてきた家族への思いやり、日本の文化や自然への尽きない興味、臨機応変で軽いフットワークなど、モンゴル女性のパワフルな魅力を目の当たりにすると同時に、日本女性と重なる部分の多さも実感した。

視察団のお二人は、短い滞在ではあったが充実していて学ぶものが多かったという嬉しい感想を残してくれた。

本年度の視察が、モンゴルの統計のさらなる発展のための刺激になることを願いつつ、節目となる来年度はより意義ある視察プログラムを用意できるよう鋭意準備に努めたいと思う。



（総務部 伊藤亜紀子）

## 第2回モンゴル統計セミナー開催および統計事情視察（9月）

平成19年9月8～15日、当財団およびモンゴル国家統計局（以下、MNSO）との3ヶ年協力事業の主要項目のひとつである、統計セミナーを開催するためモンゴルを訪れた。今回のセミナーは昨年に続き2回目の開催である。

訪蒙視察団は、当財団理事長 伊藤彰彦を団長に、外部講師として法政大学工学部教授 中村洋一氏、元アジア経済研究所主任研究員 早瀬保子氏のほか、当財団普及部 米本真莉の4名により構成された。

### ● 統計セミナー

統計セミナー（9月10～12日）の開始に先立ってMNSO幹部とのミーティングが行われ、2年目に入った我々の協力関係に対する謝辞が述べられた。また、故金丸三郎前会長に対する哀悼の意が表された。

今回のセミナーの内容は、以下のとおりである。

#### ① 「統計による国民生活の進歩の記述」

「日本の新統計法紹介と政府統計の課題」

講師：伊藤 彰彦（当財団理事長）

#### ② 「国民経済計算（SNA）」

講師：中村 洋一氏（法政大学工学部教授）

#### ③ 「モンゴルの人口データ分析」

講師：早瀬 保子氏

（元アジア経済研究所主任研究員）

受講者は、MNSOの若手職員約20名であり、連日、非常に熱心に講義に聴き入っていた。人口データ分析の講義においては、モンゴルのデータを利用した人口分析を見せたことが効果的で、受講者は大変に興味を示していた。また、SNAの講義は方法論、専門用語ともに難しいテーマではあったものの、新たな知識の獲得に挑むべく意欲的な姿勢が感じられた。各日の講義

終了後には活発な質疑応答が交わされ、さらに、セミナー終了後の9月13日に行われた専門的な討議においても、実りある議論がなされた。MNSO側からは、各テーマとも非常に重要かつ注目度の高いものであり、有用な講義であったとの感想が得られた。

### ● 今後のセミナー実施形式およびテーマ

今後、より専門的なテーマでセミナーを実施する際は、テーマごとの小グループ形式で、あるいは全体に対する全般的講義を行った後、2日目以降に小グループ形式でセミナーを行うなど、効果的な実施方法の工夫が必要であろう。

また、これまでは基本的に日一蒙の通訳による講義であったが、今後のテーマによっては、英（講師）－蒙（MNSO専門職員）という通訳の選択肢も視野に入れておくべきだと思われる。

来年のテーマ候補としては、家計調査、労働力調査、時間調査の候補が挙がった。また、SNAの知識をさらに深めるために、第2弾の可能性もあるだろう。

#### 訪蒙スケジュール

|         |    |  |
|---------|----|--|
| 9/8(土)  |    | 出発－ウランバートル到着   |
| 9/9(日)  | 終日 | テレレジ視察   |
| 9/10(月) | 午前 | MNSO幹部とのミーティング<br>統計セミナー開会式<br>「統計による国民生活の進歩の記述」<br>講師：伊藤 彰彦（当財団理事長） |
|         | 午後 | 「日本の新統計法紹介と政府統計の課題」<br>講師：伊藤 彰彦（当財団理事長）<br>当財団主催夕食会                  |
| 9/11(火) | 終日 | 「国民経済計算（SNA）」<br>講師：中村 洋一（法政大学工学部教授）                                 |
| 9/12(水) | 終日 | 「モンゴルの人口データ分析」<br>講師：早瀬 保子（元アジア経済研究所主任研究員）                           |
| 9/13(木) | 午前 | テーマごとの専門的討議<br>スフバートル広場観光  |
|         | 午後 | 在モンゴル日本国大使館 小林参事官訪問<br>JICAモンゴル事務所 守屋所長訪問                            |
| 9/14(金) | 午前 | MNSO幹部とのミーティング   |
|         | 午後 | トウフ県視察<br>ビャンバツェレンMNSO局長主催送別会  |
| 9/15(土) |    | 帰国   |



↑ ↑  
視察団とMNSO幹部

講義の様子 →

デイリー・ニュース『モンツァメ』  
の統計セミナー実施掲載記事 →



#### TRAINING LAUNCHES FOR STATISTICIANS

Ulaanbaatar, /MONTSAME/. The National Statistical Office and the Japan Statistical Data Consulting and Monitoring institute have jointly launched training for urban and rural statisticians.

The training is being led by Akihito Ito, head of the aforementioned institute, scholars Yasuko Hayase and Mari Yonomoto, and Yochi Nakamura, professor of the Hosei university.

On Monday and Tuesday, the training addressed themes "Conditions of Japanese under statistical observation", "New law on statistics of Japan", and "National account". Tomorrow, statisticians will focus on analysis of data on the population of Mongolia.

The Japanese specialists have become acquainted with activities of the National Statistical Office and the statistical department of Tov aimag.

### ● 国家間プロジェクトへの発展の可能性

本協力事業の協定書には、「両機関のどちらも反対しない場合、協定はさらに3年間自動的に延長することができる。あるいはJICA（独国際協力機構）プロジェクトのような政府間協力プロジェクトが両国間で立ち上がった場合は、協定は再構成されるであろう」とある。近い将来、JICAプロジェクトに発展させることを目指して、MNSOはこれまで以下の3つのプロポーザルをJICAに提出している。

1. 統計のIT化
2. 産業連関表の整備
3. 政府統計の能力向上

現段階では、いずれもモンゴル国内での優先度が高くないようで、JICAプロジェクトに発展するには至っていない。在モンゴル日本国大使館 小林参事官からは、違ったスキーム（留学制度の活用等）で能力向上を図った方がよいのでは、との助言もあった。しかし、今後のモンゴルの統計整備のためには、まず、小規模のJICAプロジェクト、例えば「産業連関表の整備」を立ち上げ、その後、モンゴル2010年人口センサスプロジェクトにつなげ、併せてIT網の整備も可能にするような方向が最良だと思われる。なお、MNSOのある幹部の話では、2010年人口センサスについては、2000年人口センサスのようにUNFPA（国連人口基金）によるMNSOへの

大幅な援助を期待できない状況にあるとのことである。JICAがモンゴルの統計に支援の手を差し延べ、新たな進路が拓けることを期待したい。

### ● その他

MNSOの新たな動向として、統計の普及啓発・発展を目的とした統計発展基金を設立したとのことであった。また、2004年から発行しているMNSOの機関誌『統計の課題』編集者と筆者（本誌編集者）に意見交換の時間が与えられたことは、互いの雑誌について知る良い機会となった。

なお、今回のセミナーにおいても昨年同様、経費をできるだけ抑え、余剰分でノートPC1台およびプリンタ2台を現地調達し、MNSOへ寄贈することができた。

また、モンゴル国内で発行されている『モンツァメ』デイリー・ニュースに統計セミナーの実施記事が掲載され、我々の活動が広報された。

帰国前夜に開かれた送別会では、MNSOの出席者全員の合唱というサプライズがあった。心に響く歌の音は、今回の訪蒙で何よりもモンゴルの魂を感じさせた一場面だった。

今後も我々の協力・友好関係が保たれ、さらにモンゴルの統計が発展するよう願ってやまない。

（普及部 米本真莉）

